



NHO Nishigunma Hospital

# ウイズ

— No.60 —

平成22年10月(2010年)

編集 独立行政法人 西群馬病院  
発行 国立病院機構

電話 0279-23-3030

FAX 0279-23-2740

E-mail: nishigun@nng.hosp.go.jp

http://www.hosp.go.jp/~wgunma



## “秋いろ日和” 管理課長 若林 信久

渋川市内日帰り温泉施設「ユートピア赤城」付近の田園地帯に、彼岸花(別名曼珠沙華)の群生がみられます。秋雨の中、晴れ間が見られ刈り取られた稲、深紅の華、青い空のコントラストが映えた一瞬です。

【豆知識】彼岸花の球根には毒があります。そのため昔から田んぼの畔には、モグラ等の進入を防ぐため、この花が植えられました。

### 独立行政法人 西群馬病院の基本理念 国立病院機構

#### 患者さまと共に考える医療

1. 専門性の高い良質な医療を推進します
2. 十分な情報を提供し、生活の質(QOL)を尊重します
3. 生命の尊さと人権を尊重し、安全な医療を提供します
4. がん・呼吸器疾患・重症心身障害児(者)の専門病院として、社会に貢献します
5. 健全な経営と適正な運営に努めます

### 目次

- \* 第6回市民公開セミナーを終えて .....1
- \* 第2回ふれあい看護体験を実施して .....2
- \* 職業人への一歩 ～子持中学生職場体験～ .....3
- \* 研修会報告 .....4～6
- \* 熱帯夜にカンパ～イ!!! ～職員納涼会開催～ .....6

### シリーズ

- \* 診療科紹介 .....7
- \* 健康シリーズ .....8
- \* 重症心身障害児(者)病棟だより .....9～10
- \* 歳時記 ～渋川山車まつり～ .....10
- \* 医療安全管理室だより .....11
- \* ボランティアだより .....12
- \* 栄養管理室だより .....13
- \* がん相談支援センターのお知らせ .....14
- \* 診療方針・看護の理念 .....15

# 第6回市民公開セミナーを終えて

外科系診療部長 横田 徹

第6回市民公開セミナーは平成22年6月20日に既に閉館予定でした最後のプリオパレスにて行われました。今回は健康相談や検査サービス等がなく、小規模で行われましたが、それにも関わらず160名の方がお見えになり、まず、斎藤院長の緩和ケアに関するビデオ上映、引き続き、乳癌、血液がんの予防と早期発見に関する講演、そして最後に医療から離れて大久保真さんの声楽を楽しんでいただき気分転換してもらいました。今後プリオパレスが閉館するため第7回市民公開セミナーの場所は、伊香保温泉ホテル天坊です。これからも地域がん診療連携拠点病院としてより良いセミナーを続けていきたいと思



どうぞよろしくお願いたします。今回のセミナーに出席された方々のアンケートにはさまざまなご意見が書かれていました。その中でも多くの方のご意見として最も多いのが患者の気持ちを考えた十分な説明と治療の要望でした。現在の日本の医療に携わる職員数は欧米の約10分の1であり、医師についても新臨床研修医制度による



大学医局の医師派遣力の低下で地域の病院のほとんどが医師確保に苦勞して、在職医師の業務は、外来診療、紹介状の返事や生命保険の診断書書き、今回の様な市民セミナー講演など業務量は増えています。そのため患

者さん1人あたりにかかる時間は以前に比べて明らかに減ってきていると言わざるを得ません。これは現在の医療行政に問題があるのですが、もし医師をはじめ職員がもう少し多くなり機能分担されれば皆さんのご希望に沿った細かな点まで配慮した医療ができると思います。しかしそれが実現すればその分人件費も高くなり医療費は欧米並みに高くなるでしょうから簡単なことではないと思います。皆さんもこの点について何か良いご意見がありましたらいつでも西群馬病院のメール等への書き込みをお願いいたします。大都市と異なり限られた人数のなかで、今後も、患者さんの要望に応えられるよう精一杯良い医療、しかも欧米とは異なり患者さんにとって金銭的に負担の少ない医療を御提供できますよう努力していきたいと思



# 第2回ふれあい看護体験を実施して

副看護部長 渡部 祐子

平成22年7月30日（金）に「ふれあい看護体験」を開催しました。当院近隣の高等学校10校に案内を出し、渋川女子高等学校、吾妻高等学校、沼田女子高等学校から高校1年生2名、2年生5名、合計7名の参加でした。

ワンピース型の白衣に着替えてから大会議室にて菊地看護部長の挨拶、オリエンテーション、病院・看護の概要説明後に病院内を案内しました。病棟における体験時間は約2時間と短い時間でしたが、看護師と一緒に血圧測定の練習、車いすに乗る患者体験、輸血見学、空の注射器にさわる、看護師と一緒に足浴の介助、患者さん、看護師とお話など病棟で可能な範囲で体験してもらいました。

ふれあい看護体験には他病院に高校1年生から参加し、今回が2回目の学生もいました。初めて足浴や洗髪・清拭、車椅子散歩を看護師と一緒に実施した学生は、「患者さんから気持ちいい、ありがとうと言われてとてもうれしかった。」「看護師さんと話しができて看護師になりたいという気持ちが強くなった。明るく仲が良く、こういう所で働きたいと思った。」という声や「半日の体験だったけれど常に動いている感じでとても体力がいると思った。頭を使ってテキパキと行動していて自分には足りない所な

ので、今後意識して行動してみようと思いました。」などの感想がありました。母親が看護師で「お母さんと同じ白衣が着られてうれしい」という学生もいました。

体験終了後に若林管理課長より当院の奨学金の説明を行い、進路に向けて参考にさせていただき数年後には当院の看護師になっていただければ良いと思いました。病院・看護の概要、奨学金についてアンケートでは71.4%が「とても興味をもてた」という結果でした。その後の看護師との意見交換では、看護をされていてどのようなことを大切にしているか、生の声を看護師から聞くことで学生達にとっては参考になったようです。また、病院の印象では「看護師、患者さんが共に良い人ばかりで早くなじめた。」「皆で協力しあって患者さんのことを大切に思っていることが伝わってきました。」という意見がありました。

アンケート結果から進路を選ぶにあたり、今回の体験が「とても参考になった」（100%）、と良い結果でした。来年度も今年の実験をもとに更に良い体験ができるよう企画・運営していきたいと考えています。関係者の皆様ご協力ありがとうございました。



看護師と一緒に患者さんに足浴介助



ふれあい看護体験集合写真

# 職業人への一步 ～子持中学生職場体験～

管理課長 若林 信久

残暑が厳しい、8月30日（月）から9月1日（水）の3日間、市内子持中学2年生の職場体験が実施され、病気等で通院するいつもの病院とは少し違う空気を感じながら、2年生の女生徒「福田莉那」さんが、期待と少しの緊張を胸に当院の玄関をくぐった。

1・2日目と、オリエンテーション、栄養、検査、薬剤と各職場で職員の指導の元、此処の職務の貴重な経験をする事ができた。特に検査での病理組織を顕微鏡や標本で診ることが出来たことに、大変興味を持っていた。

いよいよ、当人が一番望んでいた看護師の体

験が3日目に行われ、手術室の見学や、手洗いの実践。また、SARS感染患者にも対応可能な宇宙服にも似た防護衣の試着、入院病棟での車椅子体験や、血圧測定など日常の学校生活ではどうても味わえない貴重な体験を積むことが出来ました。

3日間の期待と緊張の長いようでも短い期間の体験ではありましたが、病院を去る日には、少し大人になったような自信と希望のオーラが体中から発散していました。10年先には、当院で立派な医療人として勤務し活躍している彼女が見られることと期待します。



顕微鏡をのぞきながら病理医長より標本の説明を受ける（左手前）



手術前の手洗いを体験する（右）



防護衣の試着



手術台に乗ってみる

# 研 修 会 報 告

## ●「平成22年度医療技術職員等新採用職員研修」を受講して●

薬剤師 小松 史法

平成22年5月26日から27日までの2日間、国立病院機構本部で行われた医療技術職員等新採用職員研修に参加させて頂きました。

本研修では、「国立病院機構の現状と病院職員としての心得について」「労働時間・休憩・休暇について」「新採用職員として必要なこと」「職種別分科会(テーマ：患者サービスとは)」「接遇研修」と、新採用職員に必要な素養を多岐に渡り学ばせて頂きました。接遇研修では、医療従事者の話し方として、「事実と意見、感情を混同しない」「プライバシーに配慮する」といった礼儀やマナーを学び

ました。また、患者様からお話を伺う際に、広く悩みをお聞きする手法や、「はい」「いいえ」で答えられる簡単な質問方法など、状況に応じたよりよい接遇を学ぶと共に、言葉や感情の機微によって相手の捕らえ方が大きく違うという接遇の難しさを痛感しました。

今後、本研修で学んだことを業務に活かすためにも、薬剤師としての専門性の研鑽や、知識の集積に努めるとともに、接遇に対しても一つ一つの行動・言葉に配慮し、より良い患者サービスを実現させていきたいと思えます。

保育士 小板橋 由江

平成22年5月26日から27日にかけて、機構本部で行われた上記の研修に参加させて頂きました。

国立病院機構とはどのような場所なのか、又、職員としてどうあるべきか、といった事柄から、先輩方からの提言、新人として患者様方や職員とコミュニケーションを取る事の重要性や具体的な方法など、沢山の事を学ぶ事が出来ました。

その中でも、特に印象的であったのが、分科会です。職種別に分かれ、「患者サービスとは」という題目で、他の施設の保育士や児童指導員、医療社会事業専門員の方々と、意見を出し合い、専門職やアドバイザーの方のお話を伺ったことは、とても貴重且つ有意義な時間を過ごす事ができたと感じています。

そして、療育専門職の意見としてまとめたのは、「患者様が満足を得られるよう、一人一人を受け入れ、個々のニーズを把握する。他職種とも連絡を密にし、生活に関する部分を支援する。」という事でした。

各科提出した意見の中にも、患者さんの内面に寄り添い、信頼関係を築き、相手に満足していただけの支援を行うという事や、他職種の職員や地域と連携し、チーム医療を実践するという事は必ず話されていたので、職種は違っても、思いや目標は共通であるということに改めて認識しました。

今回の研修会を通し、新人としてという枠を超えて、人間として大切な事を多岐に渡り学ぶ事が出来たと感じています。又、沢山の方々と交流を図る事が出来、色々な意見を聴けた事が、自分の世界を広げる良いきっかけとなりました。

今後は更に、国立病院機構の職員の一員としての自覚を持ち、責任を持った行動を取り、福祉職としての専門性を発揮しつつ、患者サービスを努め、業務の遂行にあたりたいと思えます。

最後になりましたが、この度は貴重な研修に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

理学療法士 松原 裕佳利

平成22年5月26・27日の2日間に渡り行われた、平成22年度医療技術職員等新採用職員研修に参加させて頂きました。主な研修内容は、「国立病院機構の概要」「新採用職員として大切なこと」「職種別分科会」「コミュニケーションとは」でした。社会人としても、理学療法士としても新人の

私は、日々の業務の中で、知識や経験不足に焦りを感じたり、あれこれ手を付けようとしたりと、結局行き詰ってしまうことがあります。その様な時、「新採用職員として大切なこと」の中での、『目標を持つ、困難な事こそ挑戦する、完璧にやろうとしない、今やるべき事をやる』という先輩方

の言葉を思い返すことで、乗り越えることができます。また「職種別分科会」では、他施設の方々と話合う機会を得、患者様への本質的なサービスとは何かについて深く考えさせられました。

研修を終え、今回学んだことをさらに今後に活かせるよう、改めて日々精進して行きたいと思いました。ありがとうございました。

## ●重度・重症児(者)医療・療育(基礎)講習会参加報告●

### 11病棟看護師 鷹巣 稔

平成22年6月に看護師経験3年目で参加させて頂きました。受講者は北海道から沖縄まで、重症児・肢体不自由者施設、通園施設、一般病院、国立病院機構から参加しており、食事介助の方法や食具、どのような患者がいるのか等の多くの意見を聞き、情報共有することができました。講義内容としては、日常介護(車椅子移乗、体位変換、姿勢)、理学療法士による呼吸リハビリテーションの実際やポジショニングの方法などありましたが、特に印象的であったのが、障害児(者)への摂食・嚥下の指導と実技体験です。講義は、経口摂取は消化管の生理機能の維持や単調な生活になりがちな中で生きる楽しみの1つであり、家族や介護者とのコミュニケーションの場として重要であると学びました。また、障害児の誤嚥の特徴としては姿勢の影響が大きく、その摂食姿勢としては床と体幹の角度が15~45度が良いとされています。また、咽頭へ滞留した食物が誤嚥されることが多いため、介助の方法や食形態が

重要です。実際に患者体験をしてみました。仰臥位のまま食物を口腔内に入れられると、嚥下することが困難でむせ込んでしまいました。また前方、側方介助時には、捕食の際に働く口輪筋や頬筋、咀嚼では咬筋や側頭筋等を押さえつけず、オトガイ下部、オトガイ部、下顎下縁、上唇に手をのせることで、摂食全体の働きを良くしていくこととっていました。実際にこれらの筋肉を強く押さえ、働きを阻害すると、捕食も咀嚼も困難になり、口腔内より食物が出てしまいました。摂食機能訓練は患者様が誤嚥なく安全に、今持っている摂食能力を向上させ、楽しく食事が出来ることを目的に行っています。

今後の課題として、研修で学んできたことを復習し、特に介助する場面が多い前方・側方介助の方法を確実に身につけ、日々の摂食機能訓練に活かしていきたいです。また実際に病棟で今回の学びを伝達し、正しい摂食姿勢、介助方法と呼びかけて安全に食事が出来るように努めていきたいと思えます。

### 11病棟看護師 白石 勇二

平成21年12月8日から4日間、看護師になって2年目の時期に講習会に参加させていただきました。受講者は看護師、理学療法士、作業療法士、保育士、介護士等さまざまな職種が参加していました。研修の内容は講義ばかりではなく、実技や意見交換等も取り入れられており、多くを学ぶことができました。またグループワークもあり様々な職種の方の考えや意見も聞くことができ、障害児(者)について更に深く考えることができる良い機会になりました。

今回の研修で自分が特に学びを深めることができたのは、「日常介護」についてです。研修では移動・移乗・更衣等の介助方法について、実技を通して学習しました。医療現場として障害児(者)病棟だけに限ることはありませんが、患者の安全を確保することはもちろん、自分も怪我をしな

いような介助を行うため、ボディメカニクスを応用した的確な患者の移動援助を行うことが重要です。看護師や介助者が身体を痛める原因の一つとして、間違ったボディメカニクスの反復ということがあります。必要以上に腰に力を入れてしまうような間違ったボディメカニクスを修正する事ができたため、今回の研修での学びを十分活かすことが出来ると思いました。

研修後8ヶ月が経ちましたが、日常業務の中に今回学んだ正しいボディメカニクスを取り入れることで、腰の痛みや鈍痛は徐々に消失し、その後は患者はもちろん自分も怪我をすることなく業務に取り組んでいます。今後は自分だけでなく、スタッフ全員が正確なボディメカニクスで患者の援助ができるように情報共有していきたいです。

### 11病棟看護師 工藤 愛

平成21年12月8日から4日間、看護学校卒業後2年目でこの研修に参加させて頂きました。研修

では、摂食機能訓練、脳性麻痺や発達遅滞についての病態生理、変形や拘縮のある患者への安全で

安楽な日常生活援助の方法について学びました。今回の研修で特に勉強になったのが脳性麻痺などについての病態生理です。病態生理については、なかなか本や資料がなく、今まで十分に学べていなかった現状でしたが、医師による分かりやすい講義を受け、理解を深めることができました。身体の変形により、呼吸状態が悪化してしまう患者に対して、体位を工夫することやノーズエアウェイを挿入することで、呼吸状態が安定し、笑顔がみられるようになった事例を聞き、身体の向きや体位の工夫だけでも、呼吸状態を改善することができますと学びました。また、発達遅滞については、医療者側の援助によって、患者の発達が左右されることが分かりました。患者に対して、良くコミ

ュニケーションをとり、根気良く接していくことで、その患者にあった発達がみられてくると学びました。このような事例と似た患者が当病棟にも入院しています。患者の発達を促がすことができるよう、一人一人の患者にあった声かけや訓練を行っていきたいと思います。

研修後、病棟で活かしている日常看護として呼吸状態がよくない患者や緊張の強い患者に対して、腹臥位やシムス位をとるなど、体位の工夫を行なっています。体位を変えることで、呼吸状態が安定し、又緊張を和らげることもできています。今後の課題として、現在活かしている看護の継続と研修で学んだ他の知識を有効に活用して看護のレベルアップを図っていきたいと思います。

## 熱帯夜にカンパ〜イ!! ~職員納涼会開催~

管理課長 若林 信久

うっとうしい梅雨が明けたと思ったら、熱帯地方かと間違えるほどの暑さがやって来て、夕方にはスコールと思うほどの夕立もあり、伊香保の山もジャングルに見えてくるような気がした、7月21日（水）19時、当院近くのホワイトパーク（お菓子の城）において職員互助会総会と納涼会が開催されました。

日頃業務中に見る厳しい顔とは、若干違った、ちょっと気取ったような、期待に満ちた楽しい顔の職員が多数参加されました。

総会のあと納涼会の火ぶたが切られ、院長の挨拶、副院長の乾杯と進み、各々が杯を片手にあちこちのテーブルで歓談し、会場は笑いに包まれ、とても良い時間が流れていました。参加者の顔も赤らみ、口調もなめらかになり会話が弾むなか、恒例のビンゴ大会の幕が切って落とされました。数字が読み上げられる毎に一喜一憂する声やため息の中、会場は熱気に溢れ、賞品をゲットし、喜びの雄叫びを高らかに響かせ、また長い間、リーチのまま立ち続け“ビンゴー!!”を待ち祈り続ける姿に心打たれる中、私にも女神が舞い降り、時節柄「地デジ対応チューナー」を手にすることが出来ました。

楽しい時間は早く、あっという間に終了の時

を迎え、名残惜しくも、滞りなく会は閉会となりました。こうした機会は、日頃の業務の中ではあまり接点を持ち得ない方々と普段着の自分で交流できる貴重な機会であり、自身を含め皆さまにとっても少なからず、公私ともに良い影響を及ぼしてくれるものと思います。

何かと忙しく、季節に思いを巡らすことの少ないご時世に、この日ばかりは「夏真っ盛〜り!」、と実感させられた一日でした。



## 消化器科医長 大塚 敏之

消化器科は現在3名の医師で診療を行っています。昭和60年に当院が旧厚生省の慢性肝疾患治療基幹病院に指定されたこともあり、これまで慢性肝炎、門脈圧亢進症、肝癌の診断・治療に取り組んできました。更に、平成22年からは群馬県肝疾患連携拠点病院等連絡協議会の専門医療機関メンバーとして、肝疾患の診療、インターフェロンや核酸アナログ製剤における助成制度の普及や運用に力を入れております。また、食道、胃、大腸の悪性腫瘍の診断・治療にも力を入れております。胆道系や膵臓の悪性腫瘍の診断・治療については外科、放射線科と連携して対応しています。

当院消化器科の特徴としては、診断と治療の全般にわたり外科、放射線科と協力して集学的治療を行っています。ウイルス性慢性肝炎の治療は、インターフェロン等の抗ウイルス療法を中心として、ウイルスの排除や沈静化に努め、肝硬変への進展や肝癌発症の予防を目指しています。肝硬変等が原因となる門

脈圧亢進症に由来する静脈瘤の治療は、内視鏡的硬化療法や内視鏡的結紮術を行っております。肝癌（主に肝細胞癌）の治療は、ラジオ波焼灼術、肝動脈化学塞栓術、肝動注化学療法を単独または組み合わせて行っております。最近、肝細胞癌に効果のある分子標的治療薬が使用できるようになり、特に進行した肝細胞癌患者さんへの治療効果が期待されています。胃内視鏡検査と大腸ファイバー検査の合計検査数は、消化器科と外科と合わせて年間1000例以上で、早期癌に対して行う内視鏡的粘膜切除術も年間50例以上行っています。胆道系や膵臓の悪性腫瘍につきましては、胆道ドレナージ、化学療法、放射線療法を単独または組み合わせて行っております。

消化器科は、地域がん診療連携拠点病院、肝疾患専門医療機関としての役割を担えるように頑張っていきたいと考えております。

### がん検診を「地域がん診療連携拠点病院」で受けてみませんか。

#### 検診の種類

★肺がん検診（ヘリカルCT、喀痰細胞検査） 費用 10,000円（消費税込み）

※肺がん検診はCT検査のみの場合7,000円（消費税込み）となります。

★消化器がん検診（胃・十二指腸ファイバー、腹部超音波検査、便潜血反応、直腸指診）費用 15,000円（消費税込み）

※ただし、オプションとして、1.肝炎検診（2,000円（消費税込み））2.糖尿病・高脂血症検診（1,000円（消費税込み））を付加できます。

ご予約・お問い合わせ

地域医療連携室 電話0279-23-3294

※群馬県内では、西群馬病院と他7病院が「地域がん診療連携拠点病院」に指定

我が国に多いがん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん等）について、住民がその日常生活圏域の中で全人的な質の高いがん医療を提供できる病院

内科医長 小林 剛

がんは、日本人の死因で最も多い病気です。現在、3人に1人ががんで亡くなっています。このように身近な病気になったがんですが、あなたの大切な方も、がんで悩んでいるかもしれません。緩和ケアとは、がんとともに起るさまざまなつらさを和らげるためのケアです。体のつらさ、心のつらさ、生活のつらさなど、さまざまなつらさを抱えたがん患者さんとその家族を、総合的に支えるケアのことを言います。長い間つらい状態が続くと、考えたり、眠ったりすることも大変になり、食欲や気力も落ち、これまで通りの生活を送ることが難しくなってしまうかもしれません。体やこころのつらさをやわらげ、患者さんとその家族にとって自分らしい生活を送れるようにすることは、とても大切なことです。世界保健機構（WHO：2002年）では、「生命を脅かす疾患に伴う問題に直面する患者と家族に対し、疼痛や身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期から正確にアセ

スメントし解決することにより、苦痛の予防と軽減を図り、クオリティ・オブ・ライフ（QOL、生活の質）を向上させるためのアプローチである」と、定義されています。緩和ケアとは単なる「命の終わりを見据えた医療（終末期医療）」ではなく、「病気の早期からがん治療と並行して行い、快適に生活するためにがんによって起きている問題や起きてくる問題に対応する医療」と、位置づけられています。このように緩和ケアは、がんと診断されたときから、いつでも受けることができます。つらさを取って、自分らしく生きていくことは、病気の時期を問わず、大切なことです。緩和ケアは緩和ケア病棟だけでなく、緩和ケアチームによって一般病棟でも受けることができます。また、在宅療養支援診療所の医師・訪問看護ステーションの協力などによってご自宅でも受けられる体制が少しずつですが整いつつあります。

## ご案内

## 第7回市民公開セミナー開催について

日時

平成22年11月20日(土) 13時30分から

場所

伊香保温泉 ホテル天坊 渋川市伊香保町396-20

テーマ

『がん診断までのアプローチ』

第一部

13時30分～がん無料相談、健康測定と健康相談会

第二部

15時00分～講演 放射線科医長 氏田万寿夫  
病理医長 岩科 雅範

入場無料  
多数ご参加  
下さい!



# 重症心身障害児(者)病棟だより

## 夏の行事もさまざまに… 七夕・グルメ・夏祭り

療育指導室 保育士 小板橋 由江  
保育士 長谷川 亜由美

重症心身障害病棟では、夏にも様々な行事を行っています。今回はその中から、七夕・グルメ・夏祭りについてご紹介します。

今年の七夕では、12病棟の皆さんを療育訓練棟という広いホールへお連れし、スヌーズレンを取り入れた織姫・彦星の寸劇を行いました。



### スヌーズレン

※1とは、普  
段の生活環境

とは異なる空間へ  
いざなうことで、  
利用者にゆったり  
とリラックスして  
いただき、さまざ

まな感覚を研ぎ澄ませる機会を提供する  
ものです。「わあ～、きれい」「きれいに光る  
のねえ…」暗幕を引いた暗い中、ブラック  
ライトに照らし出される天の川や、そこに  
架かる、かささぎ※2の橋を見たり、ミラー



ボールの光の下、穏やかに流れる音楽に身をゆだねるなど、全員揃って幻想的な雰囲気を楽しむことが出来ました。

グルメツアーでは、数名ずつ4回に渡り渋川市内のレストランで食事をする、という経験をしました。病棟の皆さんはいわゆる「外食」をする機会がほとんどありません。今回は和食・中華・回転寿司と出掛ける先もさまざままで、普段できない経験をすることができました。

夏祭りでは、各棟の皆さん全員の写真を貼って、2基の大きなお神輿を完成させました。また保護者様やボランティアの皆さんと楽しく踊ったり、かき氷や射的などの出店巡りを楽しむなど、盛況のうちに無事終了することが出来ました。

それぞれの行事を通して季節を肌で感じることで、また病院の外の世界を知ることは、参加される皆さんひとりひとりにとってかけがえのない貴重な体験です。ご協力頂いた皆様に心から感謝するとともに、これからもスタッフ一同協力を図り、利用者皆さんの生活を支援していきたいと思っています。



※1 スヌーズレンとは…オランダ語の「くんくん匂いをかぐ」と「うとうとする」という2つの言葉をあわせた造語で、簡単に言うと心地よい感覚刺激(光・音楽・感触・香りなど)を提供し、それらを楽しみながら



リラックスしてもらおう活動の事です。

※2 かささぎとは…別名カチガラス・コウライガラス、中国語では喜鵲。「七夕伝説」の伝来とともに古代から日本でも知られている。歌人の大伴家持に「鵲の 渡せる橋のおく霜の しろきを見れば 夜ぞ更けにける」と歌われる。大正12年佐賀県の天然記念物に指定され、生息地域は局地的。かちかちと鳴くのが縁起良いとされ、「かちがらす」と呼ばれるようになった。

歳時記

## 駆け上がれ暴れ山車 ～渋川山車まつり～

管理課長 若林 信久

「渋川山車まつり」は、2年に一度、各町内の19台の暴れ山車が、伊香保温泉に登る山道の途中にある八幡宮を目指し、標高差30m以上の急坂を引き上げます。その方法は、50～100mもあろうかという2本の引き綱を100～200人の若連が取り付いて「揉み」と称して蛇行したり扇状に広がったり観客とも競り合いながら綱を引く姿が勇壮であり又圧巻でもあります。また、下りは夜になり「ぼんぼり」の仄かな明かりの中、「後ろ綱」で制動し、お囃子の中、ゆっくり降りる「八幡下り」は優雅で山裾のこの町を焦がします。

山車の造り・飾りは北関東一を誇っていて、勇壮・荘厳で威勢のあるこの祭りに、皆さん、是非参加してみませんか。次回開催は平成24年の真夏です。



長張り提灯で山車の動きを指示する



進行役



祭りの後…



暴れ山車が八幡宮への急坂を蛇行して登る

※渋川八幡宮（ホームページより抜粋）

御祭神：応神天皇・比売神・神功皇后

由 緒：社伝によれば建長年間(1249～1256)にこの土地の豪族であった渋川義頭が鶴岡八幡宮を勧請して創建したものとされている。また、康元年間(1256～1257)には、長尾景熙が諸神社を造営したと伝えられている。



写真提供：渋川山車まつり実行委員会  
村上 守彦 (写真使用許可取得済)  
副車庫長 板倉 敏雄

地域医療連携室だより  
地域医療機関の紹介は  
お休みです

# 医療安全管理室だより

医療安全管理係長 櫻井 益代

今年の夏は、観測が始まって以来の記録的な暑い夏でした。当院では、大きな医療事故もなく過ごすことができましたのは、皆さまが日々医療安全対策に真摯に取り組んでいるからだと思います。

この夏私は、日常生活の中で、医療安全に繋がる貴重な体験をしましたのでお伝えしたいと思います。皆さんはガソリンをどのような場所で給油しますか。私はいつの頃からか記憶はありませんが、セルフのスタンドを利用しています。スタンド毎に多少の違いはあるようですが、基本的には、定位置に車を止め、エンジンを切り、自分で給油口を開け、ガソリンの種類を選び、給油して料金を支払う。という手順だと思います。その日は週末の疲れと、明日は休みという開放感とが入り交じった浮かれた気分で、いつものセルフスタンドへ立ち寄りました。いつものように給油口を開け、レギュラーガソリンを選び、ノズルを給油口に入れ、レバーを握りました。しかし、いつもは勢いよく流れ出すガソリンが、その日に限って何度もレバーを握り直しても何も出ませんでした。自分が握ったノズルを見ますと、なんと赤のレギュラーガソリンではなく、緑色の軽油ノズルだったのです。一気に眠気が覚め、胸をなで下ろしました。最初にレギュラーガソリンを選んだため、誤った軽油のノズルを持って給油されない仕組みになっていたのです。私は、この仕組みに心から感謝しました。もし、車に軽油が入っていたらとんでもないことになってしまいます。

医療の場でも最近では、誤った経路で薬剤の注入ができないように、また、危険な薬剤は

希釈された製品が開発される等工夫がなされてきています。しかし、人が行う確認行動については、手順の通りに実施すること以外には安全な方法が見あたりません。残念ながら、正しい確認を行わなかったために発生するヒヤリ・ハットは多くあります。今回私が体験したように、確認行動においても「正しい確認を最後まで行わないと、最終の実施はできない」というような仕組みが考えられれば素晴らしいと思いました。思うだけでなく、考えていかななくてはなりません。

私はこの体験の後、セルフスタンドで給油する時には、同乗している家族や友人に嫌がられても、腕を腰に当て示唆呼称しながら行っています。



# ボ ラ ン テ ィ ア だ よ り

ソーシャルワーカー 山浦 美和子

平成22年8月11日（水）に緩和ケア病棟にて夏祭りが開催されました。

会場にはヨーヨーつりやかき氷屋台が用意され、準備は万端。

まずは、恒例となりました埼玉医科大学短期大学の学生さんの演奏から始まりました。夏祭りらしく浴衣に着替えた学生さんたち。和やかな雰囲気の中で、心地よい音色を響かせてくれました。「ふるさと」や「海」など馴染み深い曲に、患者さんや家族も一緒に歌を口ずさみます。

演奏が終わった後は、ヨーヨーつりやかき氷の出番です。学生さんの手も借りながら、一人



一人に釣り竿とかき氷を配ります。実際にやってみると、皆さんのヨーヨーつりの上手さには職員も驚きました。

短い時間ではありましたが、ボランティアさん、学生さんのご協力をいただきながら楽しい時間を過ごすことができました。ご参加いただいた皆様、有難うございました。

※緩和ケア病棟では、毎月季節的な行事を行い、ボランティアさんたちが職員と一緒に企画・運営を下さっています。その他にも、緩和ケア病棟の中庭のお手入れや病棟内の清掃等、お手伝いを下さっています。



# 栄養管理室だより

～旬の食物をとりいれて美味しく豊かな食卓に～

栄養管理室長 杉山 真規子

今年はいへんな猛暑でしたが、ようやく秋めいた風を感じるようになってきました。涼しくなってくると、“食欲の秋”という言葉のとおり、食欲が出てきますし、食べ物が美味しく感じられるようになってきますね。食べ過ぎは禁物ですが、この季節ならではの旬のものを上手に毎日の食卓に取り入れて、体も気持ちも猛暑からリフレッシュしましょう。今回は夏のダメージ回復におすすめの2つの食材を紹介します。

秋が旬の味覚その①

カツオ(鰹)



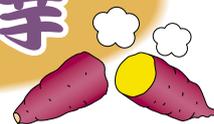
カツオの旬は春と秋の年に2回です。秋に水温の低下に伴って南下するカツオを「戻りカツオ」と呼んでいます。秋のカツオは、春のものよりも脂が多くついているという特徴があります。(春:0.5g 秋:6.2g/100g中)脂の成分では、“EPA”や“DHA”という動脈硬化予防やアレルギー・炎症を起こしにくくする効果のある成分を多く含みます。また、夏バテからの回復に効果のある、ビタミンB群も多く含んでいるのも特徴です。料理では、脂の美味しさを良く味わえる、お刺身やたたきなどがおすすめです。EPAやDHAの酸化を防ぐために、ビタミンA・C・Eを多く含む緑黄色野菜の料理をもう1品加えていただくとよいでしょう。



秋に穫れるさつまいもは、自然な甘味と“ほっくり”とした食感が魅力です。さつまいもには甘味があるとおり、糖質をご飯と同じく位に多く含んでいます。主食にもおかずにもスイーツにもなる、まさに万能選手の食材です。ビタミンCを多く含みますが、糖質に守られているため、加熱調理時に壊れにくい性質があります。ビタミンA・Eも含まれますので、夏の強い紫外線でダメージを受けたお肌のケアにも一役買ってくれそうです。昔ながらに焼き芋やふかし芋で食べるのもよし、肉や他の野菜とあわせて炒めものや煮物にしても、さつまいもの自然な甘味で美味しく仕上がります。ただし、糖質が多いので食べすぎには注意です！また、不溶性食物繊維が多いので、食物繊維不足の便秘には効果的ですが、胃腸の弱っている方や腸の手術後の方は食べる量に注意しましょう。

秋が旬の味覚その②

さつまいも



# 独立行政法人国立病院機構西群馬病院 がん相談支援センター

## ご相談方法

- 電話相談・窓口相談は、**事前予約制**になっています。  
相談予約受付は、  
地域医療連携室 担当:山田(医療ソーシャルワーカー)・山浦(医療ソーシャルワーカー)・神長  
**電話 0279-23-3294 又は0279-23-3030(代表)内線217-487-214まで**  
**(受付時間は、平日9:00~17:00です)**
- メール相談は、下記にて終日受け付けておりますが、回答は若干の日数を要する場合がございます。  
**E-mail : nishigun@nng.hosp.go.jp**

## 各種がん分野の相談日時

(電話・窓口相談は予約制です。相談は無料です。窓口相談はお一人30分以内でお願いします。)

	分野	相談員	電話相談				窓口相談				メール相談
			曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	曜日	時間帯	
1	肺がん	斎藤 龍生	火	10:00~12:00	木	10:00~12:00	月	15:00~15:30	水	15:00~15:30	月から金
		富澤 由雄				火	13:00~14:00	金	13:00~14:00	月から金	
		川島 修				木	9:00~10:00			月から金	
2	乳がん・甲状腺がん	横田 徹	水	14:30~16:30	金	13:00~14:00	水	14:00~16:30	金	13:00~14:00	月から金
3	食道・胃・大腸がん	小林 光伸	金	13:00~14:00			金	13:00~14:00			月から金
4	肝臓・胆・膵がん	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金
5	血液・造血器がん	澤村 守夫	月	13:00~14:00							月・火・水
6	緩和ケア(ホスピス)	小林 剛	火	13:00~14:00			火	13:00~14:00			月から金
7	その他(1~6以外)	蒔田富士雄	金	10:00~12:00			木	13:00~15:00			月から金

\*メール相談の受付時間は、9:00~17:00

## セカンドオピニオン担当医表

科 別	時 間	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日
呼吸器内科 (肺腫瘍)	予約制 午後2:00~	-	富澤 由雄	-	富澤 由雄	-
	予約制 午後3:30~	斎藤 龍生	-	斎藤 龍生	-	-
呼吸器外科	予約制 午前のみ	-	-	-	川島 修	-
血液内科	予約制 午後2:00~	澤村 守夫 松本 守生	-	-	澤村 守夫 磯田 淳	-
乳腺・甲状腺科	予約制 午後2:30~	横田 徹	-	横田 徹	-	-
消化器外科	予約制 午前のみ	蒔田富士雄	-	-	蒔田富士雄	-
放射線科	予約制 午後3:00~	-	松浦 正名	-	-	-
緩和ケア科	予約制 午後のみ	-	-	小林 剛	-	小林 剛

対象者：原則として患者さま本人、患者さまの同意を得た家族 費用：30分毎に5,250円  
お問い合わせ先：TEL0279-23-3294 地域医療連携室（直通）

## 診 療 方 針

- 1.がん、特に肺がん・肝がん・造血器腫瘍等を中心とした悪性腫瘍の診断治療を一層強化する
- 2.結核患者の県内拠点病院として質の高い医療を提供する
- 3.重症児（者）の療育については、各職種との連携を密にし、チーム医療の充実を図る
- 4.PCUについては、患者の満足度の更なる向上を目指して、全人的ケア（肉体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケア）を充実させる

### 看護の理念

患者さまの立場にたった最善の看護

- 1.患者さまの生命および人権を尊重します
- 2.安全で適正な看護に努めます
- 3.思いやりと真心をこめて看護します
- 4.患者および家族の皆様と共に考える看護に努めます
- 5.知識・技術を向上させ、専門性の高い看護を志します

### 患者さまの権利

- 1.最善の医療サービスを受ける権利
- 2.人格・人権を尊重される権利
- 3.知る権利
- 4.自己決定権
- 5.プライバシーを保護される権利

### 外来診療担当医表（平成22年10月1日現在）

	月 曜 日		火 曜 日		水 曜 日		木 曜 日		金 曜 日	
	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医	診察室	担当医
消化器内科	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	タカムラ ノリアキ 高村 紀昭	5診	オオツカ トシユキ 大塚 敏之	5診	ヤマサキ クンダイカンゾウ 山崎(群大肝臓)(AM)	5診	イワモト アツ夫 岩本 敦夫
呼吸器内科	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	グンダイ カミテ 群大(上出)	7診	サイトウ リュウセイ 斎藤 龍生	7診	トミサワ ヨシオ 富澤 由雄	7診	ヨシノ レイコ 吉野 麗子
	8診	ヨシイ アキヒロ 吉井 明弘	8診	ミウラ ヨウスケ 三浦 陽介	8診	ツチャ ユキコ 土屋友規子	8診	ツチャ タクマ 土屋 卓磨	8診	ワタナベ サトル 渡邊 寛
血液一般内科	3診	マワタリ モモコ 馬渡 桃子	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	マツモト モリオ 松本 守生	3診	サワムラ モリオ 澤村 守夫
	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	4診	カミオ タダシ 神尾 直	6診	マワタリ モモコ 馬渡 桃子(PM)	4診	イソダ アツシ 磯田 淳	1診	カミオ タダシ 神尾 直(AM) (新患のみ)
消化器外科	2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄(AM)	6診	コバヤシ ミツノブ 小林 光伸			2診	マキタ フジオ 蒔田富士雄	4診	ヌマガ ユキ 沼賀 有紀(AM)
呼吸器外科					6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)	6診	カケガワ セイイチ 懸川 誠一(AM)	6診	カワシマ オサム 川島 修(AM)
乳腺甲状腺			2診	ヨコタ トオル 横田 徹	2診	ヨコタ トオル 横田 徹			2診	ヨコタ トオル 横田 徹
	2診	ヨコタ トオル 横田 徹(PM)								
緩和ケア	6診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)			4診	コバヤシ ゴウ 小林 剛(PM)
整形外科									6診	ワタナベ ヒロユキ 渡辺 秀臣 (第一PM入院のみ)
放射線科	放	マツウラ マサナ 松浦 正名								

新患・再来予約外 午前受付 8時30分～11時00分  
 受付時間 午後受付 12時30分～15時00分（午後は予約診察のみ）  
 ※担当医が変更になる場合もございますので事前に電話でご確認下さい。

## 編 集 後 記

連日30℃以上の日が続く午後からは雷雨があり、群馬県が毎日のように最高気温を記録と報道され、家の中においても熱中症の危険にさらされた激暑の夏が終わりました。体調を崩され医療機関に行かれた方も多数おられると聞いております。その後の体調はいかがでしょう。どうか乗り越えたとの気持ちとはうらはらに、暑かった夏の翌年は、杉花粉が非常に多くなると言われています。体に優しい生活環境はどこに行ってしまったのでしょうか。環境順応能力が年々衰えていく最近の私です。

(M・T)

独立行政法人 国立病院機構西群馬病院

〒377-8511 群馬県渋川市金井2854 TEL 0279-23-3030 FAX 0279-23-2740 <http://www.hosp.go.jp/~wgunma>